

大人が絵本を 第2回 ミッフィーとノン



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*
小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

○大人の脳に働きかける絵本

第一回で紹介した、『読み聞かせは心の脳に届く』を解明した泰羅雅登氏は、「子どもの脳は使わないと、うまく働くようにならない」ことと合わせて、「読み聞かせは、お母さんの前頭連合野をよりよく働かせ、健やかに保つために、すごくよいこと」で、「お母さんの脳は健康になる」とも論じています¹⁾。まさに、大人が絵本を理解することで、子どもは絵本を媒介として、大切な情緒を育むのだとわかります。つまり、大人が子どもに絵本のお話をすることで、大人自身が幸福感を体感することが重要であることを示唆しているのです。その大人の安心感や満足感、すなわち幸福感が、絵本を通して大人から子どもに伝播するものと考えられます。

ここで思い出して下さい。読者の皆様が、子どもの頃に出会って忘れられない絵本が必ずあるはずです。例えば、うさこちゃん(ミッフィー)を想起する読者も多いと思いますが、いかがでしょうか。

○うさこちゃんを知ろう!

うさこちゃんは、オランダの絵本作家、ディック・ブルーナによって、正式名；ナインチェ・ブラウス(オランダ語)の名前で1955年に生まれました。1964年に日本へやってきた際に、石井桃子氏により「うさこちゃん」(福音館書店)の名称が付きました²⁾。そして、ミッフィーとは、オランダ語から英語に翻訳されたときに付けられた名前です。日本では「うさこちゃん」もしくは、「ミッフィー」の名で50年もの間、子どもから大人にまで愛され続けています³⁾。

赤、青、黄色などの原色の色使いに、太い線で描かれた平面的な絵を誰もが即座にイメージできる、それ

が「うさこちゃん」です。作者のブルーナが、単純化を見出した特徴的なキャラクターとして世に出しました。色使いは、ブルーナ・カラーと呼ばれる万国共通の色指定がなされた上記3色に、緑、茶、グレーを合わせた6色と黒のみで描かれるものです。この色使いと、デフォルメされた絵にも特徴があります⁴⁾。この技巧や手法は、子どもの発達・成長と関連があると言われています。

○乳幼児にミッフィーが人気のわけ

新生児の視力は0.02ほどで、30cmぐらいの距離にしか焦点を合わせられないのですが、はっきりとした色と線だけを認知できるのです⁵⁾。外からの細々とした刺激であっても、耳から入る読音には強く反応します。ですから、絵本を読んでいる大人の声を心地よく楽しむことができるのです。

3か月頃になると、視力は未発達ですが、物に焦点を合わせることがスムーズになり、ブルーナ・カラーのような原色を識別できるようになります。この頃は、耳と目からの読書が楽しめるようになります。耳に心地よい言葉(オノマトペ；次号詳細)と動きのある絵を楽しみ、自らも声を発してコミュニケーションを図ろうとします。その代表的絵本は『ごぶごぶこぼごぼ』(福音館書店)⁶⁾、『じゃあじゃあびりびり』(偕成社)⁷⁾です。

作・絵/ディック・ブルーナ
訳/いしいももこ
出版社/福音館書店



手にするときは！ タンの本質がおもしろい

企画 濱野 良彦
構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ
(福岡市)

そして、視力が0.2まで発達する6か月から8か月頃には、鮮やかな色と絵を形として識別できるようになり⁹⁾、輪郭も色もくっきりとしているうさこちゃんを認識できるので、言葉の意味はわからなくても、言葉のリズムと鮮明な絵を楽しんでいます。ここで言うリズムとは、3か月児の喜ぶオノマトペのリズミカルなものとは異なり、事象の表現、会話の構成におけるリズムなのです。このリズムもまた、乳児の発達に大切な感覚ですので、1歳未満の乳児であっても、うさこちゃんのお話はわからなくても、絵をじっと見て楽しむことができるのです。

1歳前くらいから、事物絵本や認識絵本期に入りますが、絵本に描かれている個々のものを、はっきりと捉えられるようになり、生活の中で見たものと合致して認識できるようになります。このように、1歳を過ぎた頃から2歳前後のうちに、短く、単純なストーリーを理解できるようになるので、お話の初めの絵本としても、うさこちゃんが最も親しまれているようです。

○批判された絵本がロングセラーに！

うさぎとねこの二大人気者、それは子どもの頃に出会って忘れていない絵本として、うさこちゃんとノンタンの二冊なのです。

ノンタンは、うさこちゃんが日本で生まれてから、ちょうど10年後の1976年に、キヨノサチコ氏(当時は、大友康匠氏と共著。その後、すべてキヨノサチコ作として出版)によって誕生したいたずらっ子のこねこです⁸⁾。現在、約40タイトルあり、合わせて2,900万部のロングセラーです。今では人気者のノンタンですが、出版5年後頃から、品がない絵、子どもにこびた内容の良くない絵本だというような批判がなされていま



作・絵 / キヨノサチコ 出版社 / 偕成社

た⁹⁾。また、そういった悪い評価から、ノンタンを置かない図書館もあったようです¹⁰⁾。子どもは好きなのに、絵本に関心がある大人に認められていない過去があります。

しかし、生活体験を主テーマとしたノンタンに、子どもたちは共感し、子ども読者の支持により、確固たる存在感を持つシリーズとなったのです。同じように、1973年初版の「アンパンマン」(フレーベル館)¹¹⁾もまた、デビュー後、大人に嫌われたのですが、子どもたちの間で絶大なヒーローとなり、世界の「アンパンマン」になりました⁸⁾。

ノンタンは、うさこちゃんと比べると、鮮やかな色使いや平面的な絵ではありません。しかし、文章が会話と擬態語を中心に綴られています。『ノンタン スプーンたんたんたん』¹²⁾を見ると、ご飯を食べる場面では、「もしゃもしゃもぐもぐ。ぱくぱくぱっくん。ほっぺがぺっころりん、おっこっちゃんう」のように、音の響きがリズミカルなため、幼児には耳から感情移入できる絵本となっているのです。

短く、単純なストーリーを理解できるようになる1歳から2歳前後のうちに、うさこちゃんと並んで、ノ

ンタンもまた、お話のファーストブックとして親しまれています。うさこちゃんが、絵（視覚）から入るお話絵本としたら、ノンタンはことば遊び（音）から入るお話絵本になります。ノンタンと比べると、うさこちゃんはナレーションと会話で構成されているので、絵本体験の少ない1歳児には、身近なテーマとリズムカルな言葉を使っているノンタンの方が、比較的、お話に入り込みやすいのです。

しかし、昨今、多数出版されている「子どもに おすすめの絵本」などと銘打たれたガイドブックに、ノンタンが掲載される割合はとても低いのです。一方、うさこちゃんが推薦される頻度は、過去から現在まで常に高く維持されています。良書の模範として、時代を超えて根強く人気高いうさこちゃんと、いたずらをしたりわがままを言ったりする子どもらしさそのものを映したノンタンに対する評価は、未だ顕在のようです。

日本の子どもたちを見て下さい。子どもたちとノンタンを重ねてみて下さい。オランダ生まれのうさこちゃんも魅力的なカラーを持っていますが、日本生まれで日本の子ども文化を魅力的に表現するノンタンは、世代を超えて愛でるに値するキャラクターです。これからも、ノンタン効果は大いに期待できます。

○医療現場で活躍するノンタン

医療従事者には周知のように、ノンタンは小児医療現場でさらなる活躍を続けています。1998年発行の『ノンタンがんばるもん』¹³⁾は、「病気やけがと闘っている子どもたちを励ます絵本をつくって」と、大学病院小児病棟のボランティアから寄せられた声で完成した絵本です⁹⁾。けがをしたノンタンが病院に運ばれて、注射をすることになります。注射が嫌で逃げ出そうとするノンタンを、友だちが連れ戻して励まします。その励ましで、注射を頑張り治るのです。小児科の待合室で病院に来ていること自体に恐怖や不安を感じている子どもたちへ、ぜひとも、お父様、お母様の声で伝

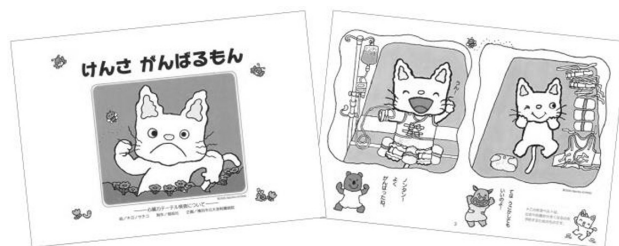
えてほしい一冊です。保護者によるプレパレーションとなります。

『がんばるもん』の8年後、ノンタンの小児医療現場のプレパレーションツールが生まれました。「ノンタンけんさがんばるもん」です¹⁴⁾。横浜市立大学附属病院の小児専門看護師から、24時間不動の安静を強いる「心臓カテーテル検査」を受ける子どもたちに、検査を理解してもらうためのツールを作りたいとの依頼を、キヨノサチコ氏が快諾してできたものです⁹⁾。このように、子どもたちに身近で、かつ同一化しやすいノンタンが、医療現場から支持されたのです。

依頼者である横浜市立大学附属病院は、「ノンタンの絵と台詞によって、子どもたちが検査後の安静についてよく理解できるようになった。検査後、覚醒してから夜まで、薬に頼ることなく安静を守れた。」と報告しています。また、もう一つの効果として患児の保護者の理解が深まったこともあげています。このように、ノンタン絵本の使用によって、患児はもちろんのこと、患者家族や医療者にもかなりの効果があったとも報告されています¹⁵⁾。

どんな評価を受けようと30年以上もの間、歯みがきや排泄、遊び、兄弟・友達関係など、一貫して身近な主題を発信し続けたノンタンが、医療従事者らによって新たな評価を生んだことには間違いありません。

偕成社の担当編集者・千葉美香氏は、「絵本も検査ツールも、ノンタンが励ますのではなく、自らが頑張っていることです。ノンタンの絵本が人気の理由は、



絵 / キヨノサチコ
制作 / 偕成社

企画 / 横浜市立大学附属病院

ノンタンが子どもそのものということで、だから一緒に頑張れるのです。」と言います⁹⁾。いたずらをしたり、わがままを言ったりすることは、幼児期の特徴です。大抵の子どもの成長過程の一端です。それがいけないということを家庭や集団生活の中で学び、改善されていくものです。そのような子どもの姿そのままを映しだしたノンタンに、子どもたちは惹かれるのではないのでしょうか。ノンタンに自分を重ねているのです。そして、大好きなノンタンが病気になっても頑張っている姿を見て、自分も頑張れると信じ、頑張るのだと考えます。

出版後、批判を受けたノンタンが、世代を超えて人気者となるだけでなく、病と闘う子どもたちの勇気を引き出す救世主となることを、ノンタンが生まれた当時の人々が予見できたでしょうか。

○ノンタンに続く絵本はたくさん！

絵本、そしてキャラクターに秘めた力を私たち大人が、まだまだ知り得ていない部分がたくさんあります。だからこそ、知ろうとする意欲をより一層強く持つべき時代の要請に気付かなければならないと考えています。

そこで、絵本に潜在する力を信じ、一冊一冊の絵本、一人ひとりのキャラクターと深く向き合っていくこと、それが大人である私たちができることだと考えます。また、子どもたちと一緒に絵本を楽しむとき、たくさんの絵本やいろいろなキャラクターと出会う体験

を、大人の主観で排除することなく自然のままに出会いを広げてあげること、それが私たちの責務ではないのでしょうか。さらに、医療従事者としての立場では、絵本との関わり方に変革の時が訪れており、絵本の力を小児歯科医療・小児医療の現場で活用・発揮させる契機ではないかと、私たちは感じております。

文 献

- 1) 泰羅雅登：読み聞かせは心の脳に届く， pp.43-46, p.56-57, 2009.
- 2) デイック・ブルーナ作，石井桃子訳：ちいさなうさこちゃん，福音館書店，東京，1963.
- 3) 特集：デイック・ブルーナとちいさなうさぎ，この本読んで，12(2):pp.4-13, 2012.
- 4) 中川素子，他 編集：絵本の事典， p.388, 2011.
- 5) 繁田進：乳幼児発達心理学， pp.26-27, 2012.
- 6) 駒形克己：ごぶごぶごぼごぼ，福音館書店，東京，1997.
- 7) まついのりこ：じゃあじゃあびりびり，偕成社，東京，1983.
- 8) 中川素子，他 編集：絵本の事典， p.327, 2011.
- 9) 千葉美香：「絵本の力」を再認識－『ノンタン がんばるもん』，小児歯科臨床，19(5):71-72, 2014.
- 10) 京都家庭文庫地域文庫連絡会 編集：赤ちゃんに絵本を読むということ， pp.188-195, 2008.
- 11) やなせたかし：あんぱんまん（キンダーおはなしえほん），フレーベル館，1973.
- 12) キヨノサチコ：ノンタンスプーンたんたんたん，偕成社，2011.
- 13) キヨノサチコ：ノンタン がんばるもん，偕成社，1998.
- 14) キヨノサチコ絵，横浜市立大学附属病院 企画：ノンタンけんさがんばるもん，シート6枚，偕成社 制作，東京，2006.
- 15) 秋山典子，他：小児患者へのプレパレーション効果，医療安全，(10):48-51, 2006.

「おすすめノンタン&うさこちゃん」

【ノンタンの生活体験絵本 キヨノサチコ作・絵（偕成社）】

『ノンタンはみがきはーみー』 『ノンタンおしっこしーしー』

『ノンタンあわぶくぶくぷぷぶう』 『ノンタンいたいのとんでけー☆』

【うさこちゃんといのちについて考える ブルーナ文・絵（福音館書店）】

『うさこちゃんのだいすきなおばあちゃん』 まつおかきょうこ訳

『うさこちゃんのにゅういん』 いしいももこ訳 『うさこちゃんとあかちゃん』 まつおかきょうこ訳